

カッピーの絵本全国販売

木 いろいろは商店会のシンボルキャラ

志 郷土愛を子どもたちに

志木市本町通りの約五十店舗で構成される同市商店会の創立三十周年事業「きりうりをカワウソ」としては商店会（清水良介を記念して昨年三月、同市にも探しに行く物語。冒険を通して、互いの友情や思いやりの心を描き、子どもたちの夢をほぐす内容となっている。

「黄金のきりうり」（お愛称を募集し、二百五十人の応募の中から「カッ」と名付けられた。所を示した志木市のイメージも掲載されている。発売された。



「いろいろはカッピー黄金のきりうり」の絵本を手にとる志木市いろいろ商店会の清水良介会長

市内にカッパの逸話／ミニアルバムも

志木のカッパは民俗学者・柳田國男（一八七五—一九六二年）の民話「山鳥民謡集」に登場するなど逸話が多く、市内には現在、十七体のカッパ像が立てられている。同市ではカッピーを商店街活性化の起爆剤として活用。カッピーサブリタなどオリジナル商品も二十二品目発売されている。

ふじみ野市在住で、著者の絵本作家小畑誠司さん（宮△は「カッピー」を通して、郷土愛や思いやりの心を子どもたちに持ってもらうためだ。次はカッピーの指人形製作などをやりたい」と話している。

また、小畑さんプロデュースで、東京芸術大出身の安西あやさんと間瀬田さささんの二人の音楽家「歌花」によるカッピーのミニアルバム「星のいのち」も発売されるなど、盛り上がりを見せている。